

2022年度GTセミナー 第56回保育環境セミナー 物的環境編③

第295号 2022年10月24日発行

ミマモルジュ挨拶

ホテルに宿泊客の様々な相談や
ご要望に応えるコンシェルジュがいる
ように、保育においても様々な
ご要望や悩みがあると思います。

「見守る」+「コンシェルジュ」=
ミマモルジュとして、保育に関する
ご要望にお応えしていけるよう
活動していきます。

株式会社カガヤ 奥山卓矢

物的環境編③

2022年9月5日～7日に「第56回保育環境セミナー」
(物的環境編)を開催しました。

オフライン参加は約100名、オンライン参加は60施設を超える
お申し込みを頂きました。今回は、藤森代表から「物的環境」につ
いて考え方をお示し頂きました。

本誌含め、4回に分けて物的環境編をお送りする予定です。

【セミナー開催趣旨】

乳幼児教育は、その時期の特性を踏まえ、環境を通して行うものであることが基本です。たとえば、赤ちゃんにハイハイをさせようと思ったら、その手順を教えるのではなく、自分から移動したいという動機(欲しい「もの」が前方にあるとか、抱かれない「ひと」が少し先にいるとか)を持たせ、そこまで行くための距離「くうかん」が必要になってくるのです。そこには、もの、ひと、場(空間)が関わってくるのです。そのために保育者は、乳幼児の主体的な活動を促し、乳幼児期にふさわしい生活が展開されるように、子どもが自発的、意欲的に関われるように、物的・空間的環境を構成しなければなりません。

そこで子どもは、それまでの体験を基にして、環境に働きかけ、環境との相互作用を通して、豊かな心情、意欲及び態度を身に付け、新たな能力を獲得し、心身を発達させていくのです。今年環境セミナーでは、「くうかん」「もの」「ひと」という環境について具体例を通して基本から学んでいきます。

ギビングツリー代表 藤森平司(新宿せいが子ども園 園長)



保育環境セミナーは全編3日間の日程です

空間的環境編	物的環境編	人的環境編
7/4、5、6	9/5、6、7	12/12、13、14
くうかん	もの	ひと

1日 視見学 + 2日 講演・実証発表 + 3日 視見学

第56回保育環境セミナー Q&A①

保育環境研究所ギビングツリー代表 藤森平司氏（新宿せいが子ども園 園長）

今回、オフラインでセミナーにご参加頂いた皆様から寄せられた質問について、ギビングツリー代表の藤森平司先生に考え方を示して頂きました。

Q1.私の園では子どもが保育室を抜け出し外に行ってしまいます。0.1クラスをもっています。せいがさんのように乳児の部屋のドアなど鍵がなく、自分で引き戸を開けて外に行こうとする子どもが未満児・以上児どちらも多いです。パーテーションを置いたりしているのですが、それをどけて、保育者もおもちゃや絵本などで引き連れても外に興味を持ち出て行ってしまいます。何かアドバイス頂けると嬉しいです。

A. まず一つが外に何が出るかという興味や好奇心があるからです。うちの園では、4月に園内探検と言って、先生たちがやっているが、どこの部屋が何があるかを行い、好奇心を満たしてあげます。園長室にも来ます。知りたがりのジョージという絵本があるが、蓋があれば誰でも開けたくなりますね。それは知りたいのは当然なので、園内探検をして最初のうちは必要かもしれません。その中でも抜けたいところがある場合は、まずそれぞれのところに職員がいないといけないので、チーム保育という、担当制といって、先生は個人ではなく、場所の担当で子どもはどこに行くか分からないので、出ていってもその先にいるその職員が見る。玄関出ていく場合は、職会で、「今、●君が外に出たがるので、そこへ行ったら見てください」と合意をしておきます。その時に危険なものがないように片づけますが、例えば、危険なものが置いてある場所、先生がいけない場所にはカギをつけておきます。これは業者に頼むしかありません。それから地震の対策などで開かないよう、止めるようなものが売っているので、それを取り付ければ両面テープで紐で繋いで開かないようにすることもできますので、出れないよう物理的にすることも必要です。0歳の部屋はどこへ行ってもいいようにします。食事の時にも、昼寝のところに行きたければそちの先生が見るようにする。ただ外へ行っても出ては困るので、鍵を閉める。外からでも、中からでも開け閉めできるようにする。こっちからだけ開けられるようにしてくれということも業者に言えば頼めると思います。可能な限り出れる範囲を作ってあげることもポイントだと思います。

Q2.0歳児クラスでの運動遊び。体を沢山動かすことのできる環境づくりにアドバイスを頂きたいです。

A. 歩き始めた子は、歩き回れるようにするために私の園では、トイレに行く時に自分で歩いて行かせています。食事に行く時も、自分で席に行き、あまり抱っこはしません。ハイハイの子は、自分でハイハイで行く。これでも十分な運動です。もう少し歩けるようになったら、トイレに行く途中に坂道を作るとか、簡単な階段を上って向こうへ行くとか、トイレ行くたびにそこを通るとかして、生活の中に運動できるようにするようにします。基本的には抱っこ、抱っこで連れて行かないことです。自分でいくようにします。ドイツは違う目的だが、先生の腰を痛めない目的だが、おむつ交換台でも階段があって、赤ちゃんは自分で登っていくので、後ろからお尻を押すとかだが、腰を痛めたいためでもある。昔、うちの園で先生たちに万歩計を付けてもらって1日どれくらい

歩くかを計算したことがあります。つけてもらったところ、なぜかその時は無駄に歩いているんですね。逆に私は歩数を少ない先生を評価しようと思いました。先生の歩く距離が多いということは、子どもにあまり歩かせていないのだろうなと思ってしまいます。ですから、保護者もよく子どもたちに運動遊びをさせてくださいと言いながら、ベビーカーで連れてきてしまうんですね。歩いてくるだけで、運動遊びになるのと思うが、日常の中にあります。その中で子どもによって違います。その場合は、時間を取って部屋の中でくつろげる時間と、まだ体を持って余してる子は、動ける場所を作ってあげることは必要かもしれない。1歳児クラスの中に、うちの園ではそれがあるので、0歳でも必要な子は、そこへ連れていきます。必ずしも自分のクラスの中だけではなく、園の中のそういうところが出来るところは使えますし、散歩でもできるのでただ走り上る、飛び降りるなどで日常のもののでできると思います。

Q3.魅力的なままごとスペースを作るための工夫を教えてください。

A.まずうちの場合は、2歳児ままごとゾーンと345のごっこゾーンで大きく分かれています。ごっこ遊びは、象徴機能で何かの真似をする。真似をするのは子どもが見たり、聞いたり真似するので、まず家庭のお母さんの真似をしてままごとということをしします。最近では外食も多いので、たまにラーメン屋さんごっこなどをすることもありますが、最初のままごとの意味は大人の真似をする、社会を知っていくことがあります。家にあるような鍋や釜、おかず、冷蔵庫・洗濯機など、お母さんの真似ができるものを用意する。345になるともっと広く、社会を知るためにあらゆる職業の消防士や宇宙飛行士のごっこが出来るとか、韓国では工事が出来るようにヘルメットやクレーンが置いてあったり、映画監督のカメラやガチンコがあったり、大人の職業のごっこをする。うちの園でもレストラン屋さん宝石屋さんごっこなどをしています。大人のそういったグッズ、最近欠かせないのはコンピューターです。コンピューターを使って注文を聞くとかです。最後のレジは、昔はレジスタを置いていたが最近では、ティッシュボックスを置いて、カード支払いができるようにピツとなるおもちゃを作るとか、大人の真似をするようなものの素材を置いておきます。買ったものではなくても、空き箱を使ったり、近くに31があり、そこではこうだとか、話をしてやりたくなるグッズを置く。大人の社会のごっこをする。2つ目は最近の課題だが、色々な世界の文化を体験する。そのために世界の衣装を置く。グローバル化してくると、様々な国から入ってくるので韓国やシンガポールの衣装。外国の衣装が置いてあって、外国の文化に触れるようにするのは345歳の中では大事なことです。割と中華街に行けば、中華服が置いてあるので、中華の服を着るとか、世界の体験をすることもごっこで、345で必要かもしれません。また、流行るのはドレスです。うちにはあまりなくて、ドイツや韓国にあるのが靴や帽子があります。ハイヒールもよく置いてあります。大人の靴を履きたがりますので、靴や帽子、そういったものも大人の真似で置いてあります。ままごとを2歳までして、345はごっこうちではしています。

Q4.せいがこども園では、製作ゾーンの展開はどのようにされていますか？

A. 制作ゾーンは、年間通して置いておけますが、時期によって目的が変わります。そのため素材を入れ替えたり、何を充実させるかを考えます。4月当初は、入園して間もないので落ち着かなかつたら、塗り絵みたいな曼荼羅

塗り絵みたいな外側から塗っていくと集中力が養うことで子どもたちが落ち着くとか、梅雨時期に子どもたちが体を持って余すようになったら、箱などを置いて立体的なものを作るようにするとか、置いておくものを替える。それらの遊びを流行らせることが出来ます。粘土を流行らせるとか、絵の具を置いて絵の具をできるようにするなどの展開を考えます。置いてある素材で、子どもたちに流行りを作る。先生たちが意図したものを置いておくことをします。制作ゾーンは、時期によって素材を入れ替えることが一番のポイントです。出来上がったものを飾れるようにする。途中の物を取って置いて取って置けることが大事です。成長展で年会1回子どもたちの成長を示すが、子どもの成長の一人ずつの発達があるので、それを見せていたが共同作品がなかったので、協力することも成長の一つなので、共同作品を飾るのはどうかということ、大きなみんなで作る動画を撮って早送りをして見せました。動画を撮って早送りすると1日があっという間で、作っては壊してを繰り返しているのが見えます。親は出来上がったものしか見れませんが、途中が見れませんがそれを使うことは、親たちが喜びました。制作ゾーンは作っている途中も親に見せる工夫も必要かもしれません。

Q5.クラスの人数が多い場合、落ち着ける場所や遊び込めるゾーンはどうすればいいのか？

A. 5Mを提案していて、メリハリがあります。メリハリは子どもたちの活動で大きな人数でやるときと少人数、一人でやるのが組み合わせることが必要だと思います。たまには数人、たまには一人でやることも必要だろう。うちの4階には、絵本ゾーンのカウンターは、一人ずつがタブレットや本を読むことが出来るようにしています。癒しゾーンのように、集団の中にいるとパニくる子がいて、簡単なテントを用意して潜れるようにする。段ボールで小屋を作ったりすることも必要です。開放する場所だけだと落ち着かないので、小さい部屋。うちは押し入れを外して狭い部屋にしたり、一時期2歳では大きな木を作って、祠みたいにしてそこに入れるようにするとか、押し入れの下を開けて、こもれるようにするとか、大人数、少人数、一人で過ごせる場所を作ってあげることが必要だと思います。やる場所も関わる人数を選べる必要があります。遊びこめるゾーンは、子ども同士が真剣にやっていることを邪魔しないことが必要です。まったく一人でないと集中しないというのでは、山手線も乗れませんね。人がいても、本に集中できることが都会である意味生きていく一つだと思うので、人がいても真剣にできること、他の子が真剣にやっていることを邪魔しないことも必要かもしれないですね。

Q6.保育環境ですが、床に敷いている丸いマット探しているのですが、なかなか見当たりません。

どちらで購入していますか？

A. 2階にあるブロックのところは丸い印があった。それに合わせた大きさが欲しかった。園で使うには防災加工が必要です。防災の絨毯が必要なので、保育業者に言って切ってもらいました。ジャクエツさんが、直径●センチの防災加工の物でと作ってもらいました。コッファとかでは、一緒に開発して、アルファベットが示してあるというものが売っています。大きさを指定して作る場合には、そういうものを丸く切ってくれますし、三角にもしてくれます。うちの床はリノリウムだが、丸く色を変えてほしいと言ったらはめ込んでくれます。絨毯じゃなくてもできます。水道で並ぶときには3つ蛇口が合ったら、一つは丸、三角、四角にしてとか、リノリウムだったらその形に切り抜いて違う色を入れてくれます。いろいろな方法でやってみるといいと思います。

Q7.夕方の保育についてお伺いしたいです。現在、0.1.2歳児 30名弱を職員 3名程で見えています。ゾーニングが上手くいかないのですがどの様にされていますか？あと、子どもに遊びを決めてもらう様にする際日誌などはどの様にされているのでしょうか？

A. まず、夕方は当然合同にしていきます。問題は0歳はおむつの交換があるので合同が難しいのと、345と好きなゾーンで遊ぶときは合同が難しいので、先生の数が可能な限りは、345は夕方でも345の部屋を使うとか、0は0の部屋を使います。基本的にはそんな一緒じゃないです。先生が2、3人になったらうちの場合は1歳の部屋。その時はゾーンで遊ばないで、1歳のおもちゃか夕方用のおもちゃを別の箱にしまっているのでも遊んでいます。それよりも夕方の人数が少ない異年齢は、家庭の兄弟のような見方をします。兄弟が一緒になって遊ぶような感じをします。発達に合ったものというよりも、年長さんがその時は1歳のおもちゃで遊ぶとか、1歳の子を見るとか、夕方はゾーンの考え方はないです。日誌はやったことを書くならやった遊びを書けばいいが、問題は指導計画です。子どもが遊びを決めてもらう場合は、本来指導計画は書けないです。本来は指導計画はいらないと思っています。ただ、その時に書くならねらいは、子どもの参画をねらいにし、子どもに遊びを選ばせませすとして、計画を立てればいいわけです。選ぶ時に3つ、習熟度だったら簡単・普通・難しいとか、外か屋内か、2つか3つ選択肢を用意しています。選んだ子どもたちを担当した先生がその欄を書きます。分け方がいろいろあるが、制作をするときに、習熟度で分けたら簡単を担当した先生が日誌を書きます。担当した先生が書くようにしていますので、担任ということではないです。指導計画は難しいので、異年齢で主体的に遊びを選べるようにしますということです。年齢別で何か計画を立てるなら345歳も異年齢で活動するとかします。日誌はその時に子どもを見た人が書くので、担任というわけではないです。

Q8.1歳児を担当しております。自園では、遊食寝と空間を分けてはいるのですが、遊ぶ部屋が箱形のような形で狭く、戸外から帰りオムツ替えや着替えをする場所も、奥になるのですが、遊ぶ部屋と同じになっています。棚の配置変えで構成を変えたりするのですが、細かく分けることが難しく、ゾーンではなく子どもたちが集中して遊ぶ姿がないと課題としています。また、夕方は0歳児の子どもたちも同じ空間で過ごしているのでも、1歳児と同じ玩具を持って遊ぶ姿があります。友達や子ども達との関わりが盛んになっている分、同じ玩具を持って追いかけて遊ぶ姿があり、けれど夕方は0歳児の子どもも一緒に過ごしているのでも危険な所もあります。子ども達同士の関わりも大切にしつつ、子どもたちが集中して遊びに夢中にできる環境に整えていくには、先ず何を優先して変えていったらいいのでしょうか。

A. まずははっきり言って日本の環境ではすべてを分けて1個ずつ保証できるような余裕は中々ありません。日本では最低基準が決まっています。保育士の数と部屋の面積です。これが問題なのが、言葉を替えないといけませんが最低基準は、これ以下はおかしいということです。補助金は最低基準でしか来ないんですね。最低が、標準基準になっているのがひどさですね。最低は、これ以上最低ではあってはならないということなので、当然最低以上じゃないといけません。部屋も面積も、保育士も3:1が最低ですから、当然2:1とか、先生が多くないと本来おかしいです。外国と比較するのは変ですが、最低であって標準基準ではないです。日本はそういう意味では、貧相ですね。今後、待機児が減って、子どもが減ってきたときに、余裕のある空間づくりや余裕のある配置

基準にしていかないといけないですね。いなくなったからと言って、閉鎖していくのはおかしくて、基準を見直して欲しいと思いますが、お金がかかることで難しいので、今は仕方ないですがまず両立は出来ません。何を優先して変えていったらいいかを、先生たちがその都度、何を優先するかを考えないといけません。今日のこの時間は、子ども同士なのか、一人ずつが落ち着くことなのかを考えないといけないです。散歩へ行く時も、今日は0歳児は十分と発達を遂げようとするなら、歩き始めの子同士で行く。ふれあいを大事にするなら、子ども同士が触れ合うようにいく。年齢の違う子ども同士の触れ合いを大事にするなら、上の子と手を繋いでいく。集中して遊ぶことと、子ども同士の関わりはどちらかを選べば、どちらかが無理なので、日によって計画する。それは先生の数によって計画すると思います。今日は休みがいなく多いなら、活動を分けて集中して遊べるようにするとか、先生が少ないなら、合同で子ども同士が見合うようにするとか、意図を考えるしかありません。意図によって空間を作る。場所を考えるということです。兼用することはあり得ますし、遊んでいる場所で寝ることもあり得ます。完全に分けることは日本では難しいです。ただその中で何を大事にするか、ある雑誌から原稿が来て、コロナ禍における食育活動についての取材があった。コロナかにおけるということで、例えば、うちの園では、子どもが量を言ってよそってもらうことをしています。これがコロナによって、役所からしてはダメというところがあります。しかし、量を言うことがダメなのではなくて、飛沫感染を恐れてです。例えば、遠くから写真を見ながら量を言ってはいけませんかです。それはいけないはずがないです。役所は表面的なことを言うてくる。異年齢児保育がダメと言われましたという園があるが、これは聞いてみたいが、どうして異年齢がダメかという、異年齢の方が同年齢よりもコロナがうつりやすいと思っているのですか？と聞きたいですね、そうだと家庭は全部だめですね、異年齢ですから。そうではなくて、集団規模が多くなるとはダメだと思います。濃厚接触者を減らしたい、だったら20人ずつの活動をしてくださいだったら、異年齢だろうが、同年齢か、それは関係ないですよ。それを異年齢はダメと言ってくるんですよ。何を大事にするかで、量を言ってそれをよそう。次の時代の子どもの参画です。子ども基本法が出来た中に、意見の表明権、自分の考えを表明することで、ドイツが取り組んだことが、自分がどれくらい、誰と、何を、どこで食べるかを決める権利から入っているんですね。コロナでダメではなくて、コロナだったらどうしたら実現できるか考えないといけません。信じていることを止めてしまうのはおかしいことで、何がダメかを確認して、飛沫なら飛ばない工夫をする。まず自分たちが何を大切にするか。部屋を分けるかどうか、その中で何を大事にするかなので、子どもが集中して遊ぶというのは、一人で閉じこもらなければ集中しないということは子どもではありえません。隣で遊んでいても、集中するのが子どもです。大人の考えで集中していないというが、そんなことはない。0や1が遊ぶ内容によります。まず自分たちがこの場所で何をやるか。何かを犠牲にしないといけないということを、みんなまで話し合わないといけない。欲張ったら中途半端になってしまうので、夕方などは01が一緒なら、たまには1歳が0のおもちゃで遊んでもいいし、年長が1の遊びをしてもいいし。取り合うこともケガがなければいいと思います。ゾーンを作るときは、うちの園の2歳児は狭いです。定員が途中から1.5倍に増やされています。あの部屋は、20名規模で作っていたものが、途中から30名入れると言われていたので、当然無理があります。当然何かを犠牲にしないといけないが、先生たちが30名になってよかったですね、保護者に言うようにしようと、狭くなったので1歳のおもちゃで遊べるようになったからとか、前向きにとらえる。メリットがあるようにする、これは先生たちの力ですね。職員に感心したことがあるが、運動会の前で跳び箱の練習をした方がいいと言って、●●君と●●君、練習しましょうと言った後に、先生が「やったー！」と言ったんですね。残った子が、「やったー」ということだと思っていた。前向きにとらえていくことは、アメリカの研究で質の高い保育者と言

われています。質の高い保育士は、ポジティブにとらえること。園が変えられない時に、逆にメリットとするにはどうしたらいいのか。小さいうちは、細かく分ける必要はないと思います。分けなくても、集中は出来ますので、先生の数が少ない時に分けてしまうと、死角が多くなってしまうと思います。01はおもちゃを持って遊ぶ、取って遊ぶとかよりも、問題は飲み込んでしまうことは気を付けないといけません。そういうことを気を付けないといけません。違う年齢に対しては噛みつかないと言われていました。同じ年齢にするとされていますので、わざと意地悪をしないとされます。意地悪をして物を取ることもあるが、うちの孫も、上が下を殴ることがありますが、下は機嫌を取って我慢をしたりしますね。大人が入って物を取り返すと余計なお世話です。子どもなりに乗り越えようとするので、昔の大家族の時のような知恵が生まれることもあるので、何を優先するかは先生たちで話し合っ決めて工夫をしてみてください。

本稿は、2022年9月6日に開催した「第56回保育環境セミナー」のQ&Aの内容をまとめたものです。

(文責/奥山卓矢)